



AWSからお客様へのメッセージ

自らのイノベーションと進化を継続し その知見をお客様・社会へ還元



アマゾン ウェブ サービス ジャパン 合同会社
代表執行役員社長

長崎 忠雄

「徹底したお客様志向」がAWSの源泉

2021年はAWSがクラウド事業を開始して15年、日本でサービスを開始して10年目にあたる節目の年でした。

事業開始当初は、クラウドコンピューティングに関する興味は高かったものの、実際に導入するには一定の時間が必要でした。それが今では世界190カ国以上で数百万、日本だけでも数十万以上のお客様に利用されています。想定されるあらゆるアプリケーション、例えば業務アプリケーションのSaaS化、AIや機械学習によるデータ利活用のほか、ERPをはじめとする基幹インフラとしてクラウドを利用するケースも増えています。多くのお客様が、クラウドの“真価”を最大限享受する時代を迎えています。

AWSクラウドは既存ビジネスを再考し、“真のトランスフォーメーション”を実現する機会を提供します。顧客を中心に据えたビジネスを創造し、市場の変化にも機敏に対応できるようになる。新しい方法でデータを活用し、より速く確かな意思決定が可能になる。クラウドへの活用によって、企業文化も大きく生まれ変わります。

AWSはミッションステートメントである「徹底したお客様志向」を基軸に据え、この“真価”を発展させてきました。この姿勢はこれからも変わることはありません。AWSが提供するサービスは200以上あり、お客様の声を基に日々改善を繰り返し、新しい価値提供に努めています。

AWSクラウドの導入・活用を支援するパートナーコミュニティも拡大しています。特に日本市場はクラウド導入、運用を自社でやりたいとも人材不足により、なかなかタイムリーに導入できないという声も多くいただきます。それにこたえる形で、全国をカバーするパートナーコミュニティを通じて、お客様のニーズにスピーディに対応しています。また、同時に自社クラウド人材育成プログラムも充

実させることで、多くの企業が自走できる取り組みも実施しています。エンジニアの人材育成支援はAWSの重点施策の1つです。変革の推進には、デジタル戦略を素早く実行できるエンジニアの内製化が重要なカギを握ります。そこで初級・中級・上級とそれぞれの段階にあわせた多彩なトレーニングプログラムを用意しています。加えて、2025年までにグローバルで2900万人にクラウドのスキル教育を無償で提供していきます。

未踏領域を共に切り拓く

クラウドの利用は広がりを見せていますが、AWSクラウドの進化はまだ始まったばかりです。足元を見れば、社会や暮らし、ビジネスなどあらゆる局面でデジタル化が進んでいます。SDGsへの貢献によるサステナビリティの実現も重要な経営課題です。

社会の一員としてサステナビリティの実現を目指し、その中で変革と成長を手にするためにはどうすべきか。大切なことは「パスファインダー(先駆者)」を目指すことです。未踏の領域に足を踏み入れ、自らが道を切り拓いていく。これは2021年11月29日(米国時間)に開催されたグローバルカンファレンス「AWS re:Invent」の基調講演の中で、CEOのアダム・セリプスキーが示したキーワードです。

AWSはこの取り組みを幅広く支援しており、AWS re:Inventではその事例も多数紹介しました。

例えば、NASDAQは新興企業向け株式市場を運営するだけでなく、金融ソリューションプロバイダーへの変革を目指しています。その一環として「AWS Outposts」を活用して超低遅延の金融サービスの提供を2022年から開始するプランを発表しました。

世界が注目するパスファインダーが、この日本からも生まれています。NTTドコモは数ペタバイト規模の超巨大

なデータウェアハウスを「Amazon Redshift」上に構築。オンプレミスに比べて、データ分析処理を10倍も高速化し、業界のデジタル変革をリードしています。

紹介した企業はいずれも業界を代表するトラディショナルな企業です。歴史のある大きな組織の変革は難しいといわれますが、クラウドを活用すれば、そんな常識を打ち破ることができるのです。もちろん、AWSは中堅・中小企業やスタートアップなど、企業規模や業種・業態を問わず、幅広いお客様の変革もご支援しています。

クラウドの提供を通じ、お客様のサステナブル経営にも貢献します。クラウド自体がインフラの集積率が高く、エネルギー効率や冷却効率に優れていることは広く知られています。AWSはこれにとどまらず、プロセスレベルでさらなる効率化を図っています。プロセッサメーカーと共同で開発した次世代Armチップ「Graviton 3」は、前世代と比べワークロードを最大3倍高速化し、電力消費量も最大40%削減可能です。

お客様の文化・組織変革の挑戦に伴走

様々なサービスを提供するだけでなく、自らのイノベーションの経験と知見もお客様にご提供したいと考えています。

AWSは関連会社であるアマゾンとともに変革に取り組

んできました。その活動はこれからも続きます。どのようにイノベーションを起こし続ける組織を創り上げたのか。「Our Leadership Principles (OLP)」をはじめとする変革に向けた実現・定着の方法論を提供し、お客様のイノベーションをご支援していきます。

サステナビリティを目指す活動でもこの姿勢は変わりません。気候変動対策のため、20億ドルの基金で「The Climate Pledge Fund」を設立したほか、2025年までに再生可能エネルギーの電力比率を100%に、2040年までに炭素ゼロ化を100%にすることを宣言しました。こうした活動のノウハウをサービスにフィードバックするとともに、お客様のサステナブル経営に向けたチャレンジをサポートさせていただきます。その一つとして、AWSのご使用によって生じた二酸化炭素排出量をお客様にレポートする機能を準備しております。このAWS Customer Carbon Footprint Toolは2022年の早い時期に提供を予定しており、お客様は月間、年間の二酸化炭素排出量を監視・分析することが可能となります。

AWS自らが変革者となり、継続的なイノベーションの創出により、お客様中心の新しいビジネスを展開し、同時にサステナブルな社会の実現を目指していく。これからもこの歩みを止めることはありません。未来に向けたビジョンをお客様と共有しながら、AWSはパスファインダーを目指すお客様の挑戦に全力で伴走していきます。

長崎忠雄

2022年のお知らせ／イベント情報

5月25～26日 AWS Summit Online	技術・ビジネスの両面にわたるテーマをすべて網羅したイベント
1月20日・7月14日 (初心者向け) AWS Builders Online Series	AWS初心者の開発エンジニアやIT担当者向けのオンラインイベント
2月2日・3月2日・4月6日・6月1日・7月6日・8月3日・9月7日・10月5日・11月2日 (初心者向け) AWSome Day Online Conference	AWSのコアサービスに関する基礎知識をおよそ3時間で体系的に学べる無料のトレーニングイベント
2月24日 AWS Innovate AI/ML Edition	AIおよびML (Machine Learning) の勤所やソリューションについて解説するオンラインカンファレンス
8月25日 AWS Innovate Data Edition	データの利活用やそのためのデータ環境の整備に関して解説するオンラインカンファレンス
11月9～10日 AWS Innovate Modern Apps Edition	データの利活用やそのためのデータ環境の整備に関して解説するオンラインカンファレンス
11月28～12月2日 AWS re:Invent	米ラスベガスで開催される年次カンファレンス。著名CxOが登壇する基調講演や多彩なテクニカルセッションに加え、新サービス・機能に関する発表も行う